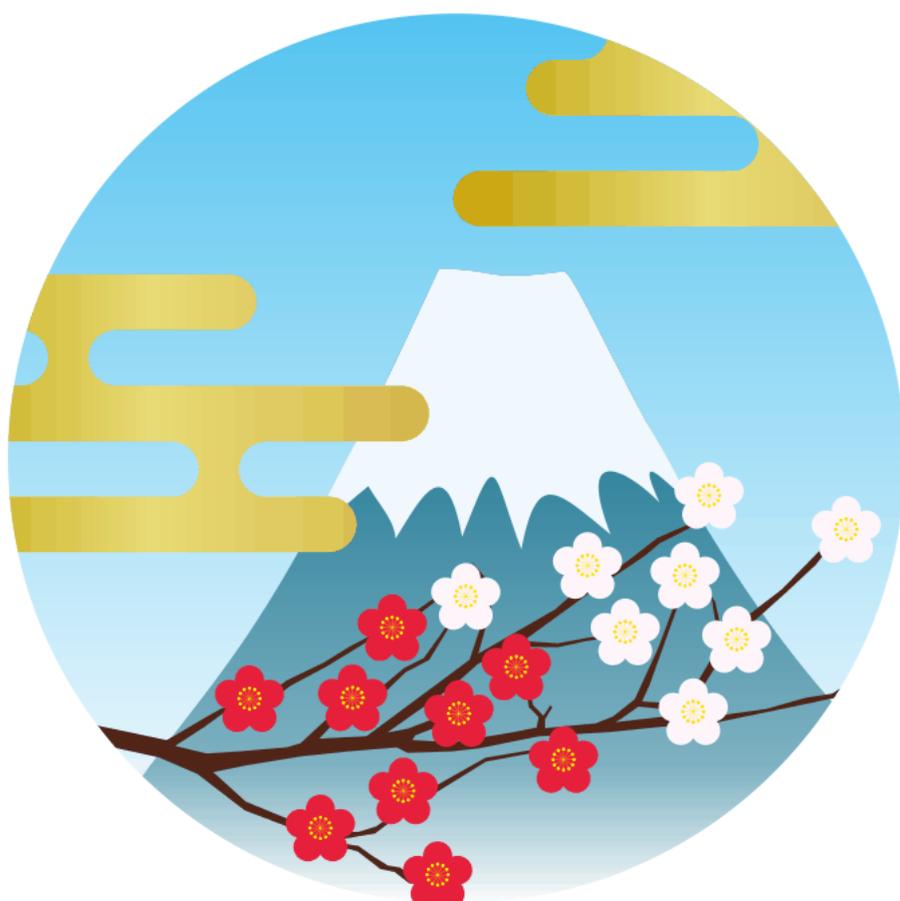


# 特別支援教育部会

## 令和4年度 1月例会報告



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A1	1月	32人	草野小学校
<p>教材・教具・実践紹介、各学校の教材見学</p> <p>○千葉市内小学校 特別支援学級担任2名 「オリジナルべんとうをつくろう」図画工作 紙粘土で自分が食べたい弁当を想像し、料理の形や大きさ、数をどのように表すか考え、作る。Kクレイ粘土を使用し、手先が器用でない児童でも作りやすい紙粘土にした。弁当箱を用意することでより具体的に献立を想像できるようにする。 「作品鑑賞」生活単元学習 ギガタブのJamboardを使用し、制作したお弁当箱を鑑賞する。作品に対して思ったことを記入し、共有する。実態に合わせてローマ字入力や手書き入力など変える。</p> <p>○千葉市内小学校 特別支援学級担任 「合体ロボット」国語 児童の興味関心に合わせ、主語や述語をロボットの頭と足に対応させ、胴体には助詞に対応させる。正しくロボットが組み合うように合体させることで、文中に助詞を使う意識を持たせる。 「おはじきゲーム」 中央に穴が開いたおはじきを使い、的の中心を狙うゲームを通して長さを測る学習を行う。中心からおはじきまでの距離は紙テープや定規など段階を追って変えていく。</p> <p>○千葉市内小学校 特別支援学級担任 「わかば郵便局をしよう」生活単元学習 校内郵便局を開き、はがきの仕分け、配達を行う。全校児童や教師との交流を図る。人の役に立つ仕事について知り、学校のために活動する意欲を育てる。</p> <p>○千葉市内小学校 特別支援学級担任2名 「おそろいグッズをつくろう」生活単元学習 げんきキャンプに向けて子供たちと意欲を高めるため、藍染めTシャツを全員で作成した。げんきキャンプへの意欲付けとなった。藍染めの仕方を学習したり、材料を用意したり、子供たちと一緒に進めることを大切にしたりした。</p>			
次回例会	日付	会場校	内容

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2	1月	29人	院内小学校

【 特別支援学級における授業実践報告会 】

千葉市内小学校 4校

○体育科 単元名 跳び箱運動 (担任2名)

- ・技に取り組む前に、安全な着地を身に付けたり、様々な場で腕支持感覚等を養ったりしていった。
- ・目標ボードを作成し、意識して頑張るめあてを一つ立てたことで、どの子も意欲的に学習することができた。
- ・技能の習得状況については、毎時間の始めの動きづくりの中で「ピタッ」という言葉を子供同士でも使いながら確認し合ったことから、全員が安全な着地を身に付けることができた。

○生活単元学習 単元名 だいすき！ ぼく・わたしのまち (担任1名)

- ・自分たちの住む町のお気に入りの場所・物・人について探検したり調べたりして、友達と伝え合ったり校内や地域の多くの人に伝えたりする活動を四年間に渡って行ってきた。
- ・実際に探検に行けない代わりに一つの教室を自分たちが住んでいる町に作りかえたことで、身近に感じることができた。
- ・実際にパン屋へ買い物学習に出かけた。300円の予算で食べたいパンを1つ購入する体験学習を行った。消費税の関係で何円までのものを購入できるかを事前の学習で伝え、当日はその値段に注意しながら商品を選んでいった。支払いも一人ずつ行い、自分でパンを買えた喜びを一人ずつが感じていた。

○道徳科 単元名「はしのうえのおおかみ」「みんな おんなじ？」(担任1名)

- ・ハートメーターを活用して、その時の自分の気持ちを表現することができた。
- ・五味太郎作「質問絵本」は文章が少なく、絵の情報からそれぞれの意見を交流させて進めていくことができた。また、普段と異なる進め方に興味をもったり、いつもは意見が言えない児童も自分の意見を言うことができた。
- ・特別支援学級のティームティーチングのよさを生かしグループごとの活動のときにも担任が必ず支援をしながら進めていった。そうしたことで、グループでの話し合い活動が円滑に進められた。また、補助発問シートを作成し、どんな声かけをするかを事前に共有しておいた。

○生活単元学習 単元名 しっかりたべて げんきにすごそう (担任1名)

- ・担任と栄養士とが協力し、様々な活動を取り入れたことで、「食」に関して意欲的になり、食べているものに含まれる栄養について興味をもつことができた。また、苦手なものでも一口は食べてみようという気持ちになった。
- ・「SDGs」の視点から「食育」を進めたことで、飢餓に苦しんでいる国の人々がいることや、作ったものをしっかりと食べるのが大切だということを考えることができた。「食べ物を残さずに食べたい。」「給食を毎日食べられて嬉しい。」と感想をもち、目標に向けて今の自分は何ができるだろうかと、一人ひとりが考えることができた。

次回例会	日付	会場校	内容

市教研 特別支援部会 例会報告書 (7日以内)

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	1月例会	34人	千葉市中央コミュニティーセンター

○特別支援学校の概要

- ・ 中等部、高等部の在籍数、学区
- ・ 高等部の説明（コース別）

○特別支援学校について

- ・ 入学に必要な力
  - 就労準備性ピラミッドの説明（職業適性、基本的労働習慣、対人技能、日常生活管理、健康管理）
- ・ 障害福祉サービスについて
  - 生活介護、就労移行支援、就労継続支援 A 型、就労継続支援 B 型、自立訓練（生活訓練）
  - 卒業生の進路状況
- ・ 卒業後の支援について
  - 卒業後の3年間、卒業後、4年以降
  - 障害者就業・生活支援センター、基幹相談支援センター

○質疑応答

次回例会 日付	会場校	内容

ブロック名	月例会	参加人数	会場
C	1月	36人	オンライン

**1 きこえの教室担当者「交流とケース会議」**

- 入級していない相談枠の児童への対応について各校で出し合い、改善点や今後の見通しについて共通理解を図った。
- 交流学习で使用するジャムボードについて、使い方や今後の計画について話し合った。
- 来年度予定されている提案について、内容（骨伝導補聴器、360°の音を拾う補聴器）や今後の流れを確認した。

**2 ことばの教室担当者「構音指導で活用している教材の紹介」**

- 発語器官の運動機能の向上に関わる教材
  - ・カラー写真を使用した口と舌の体操カード
- 正しい構音位置を理解するための教材
  - ・舌圧子に代わり、6mm幅のストロー4本を横に並べ固定した物を使用する。
- フィードバックするための教材
  - ・ギガタブで継続して口元を撮影し、スクリーンキャプチャーで編集することで、過去と現在を比較できる。
- 発音練習の教材・アイデア
  - ・マンカラで遊びながら反復練習をする。
  - ・一枚に一音書かれているカードと練習音を並べ順番に発音する。
  - ・「かこかこがごがごかぶとむし」のような練習音を多く含むプリント。
  - ・ビンゴ（くじを引き書かれている単語を発音する、カードをめくり書かれている単語を発音する、など）
  - ・場に出されたカードに描いてあるいくつか絵のうち、自分の手持ちカードの中に同じ絵が描いてあるカードがあった時、絵の単語を発音しながら場にカードを出していくゲーム。
  - ・エクセルのマスにそれぞれポケモンの名前を入力し、検索機能で練習音を含む名前だけを抽出する。この方法で語中や語尾に練習音を含む名前を取り出すことが容易にできる。
  - ・構音ドリルブックのコピーを一文ずつ裁断し、裏に数字を書き、正しく発音できたらポイント獲得とする。
  - ・『そして』『行きました、壊しました』などのカードを途中で織り交ぜて発音しながらシ音の定着を図る。
  - ・『思わず話したくなるイラストBOOK』で会話をしながら発音を確認する。
- 語彙の拡充につながる教材
  - ・『サ行音』など音が書かれたカードと『大きい物』などと条件を示すカードをそれぞれ引き、連想する言葉を考えて答える。 など。

**3 諸連絡**

- 県特連について
- 12月ブロック研修に対する質問への回答について
- 来年度の役員について
- 推進委員から挨拶（令和4年度振り返りのアンケートのお願い）

次回例会	日付	会場校	内容

市教研 特別支援部会 例会報告書 (7日以内)

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D	1月例会	18人	オンライン研修

一年間の振り返りと次年度の見通し

○4グループに分かれて話し合いを行い、発表しあった。

<今年度の振り返り>

- ・6月例会の「ライトポート中央見学」については、実際に授業参観をしたり先生方の思いを聞いたりすることができ、とても有意義であった。
- ・9月例会の「指導の悩み」については、コロナでなかなか情報交換ができないのでとても貴重な時間であった。もっと時間を長くしてほしい。通級担当者だけでなく、特別支援学級等の先生方とも情報共有ができてよかった。
- ・10月例会の「WISC 結果からの配慮」については、結果の読み取り方を知ることができて勉強になった。検査結果だけでなくその子の全体像をみる大切さがわかった。
- ・11月例会の「ギガタブでの指導」については、教材の作成方法を知ることができた。実際に学校で教材づくりをして活用した。ギガタブの共有アイテムに教材を入れて活用できるようにした。
- ・全体を通しては、参加率が低い例会があった。

<次年度の見通し>研修したいことを出しあった。

- ・施設見学は今後も続けたい。  
障害者雇用について、企業側の具体的にニーズについて知りたい。  
放課後デイサービス事業所見学。
- ・悩み相談などの、ざっくばらんに話ができる時間を希望する。今年度はリモートで1時間であったが、できれば会って話をし、時間も長く行いたい。
- ・HSCは5人に1人とされている。詳しく知りたい。
- ・専門家を講師として招聘して話を聞きたい。
- ・教材や指導の紹介や事例検討。特性別に教材や指導法をデータで整理したい。
- ・中学校の情報や高校の情報、その先の就労の情報を知りたい。
- ・実践を発表しあう。
- ・WISCVの情報。

○推進委員より

- ・今年度の会計報告 承認
- ・今年度の推進委員より一言
- ・来年度の推進委員について

次回例会	日付	会場校	内容

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A1	11月	36人	瑞穂小学校
<p>1 授業研究（ビデオ視聴） 算数科「ボッチャ&amp;カーリングをしよう」</p> <p>2 協議会 ○授業者から補足説明 ・児童について ○グループ協議・質疑応答 ・長期的に単元を計画する良さ ・みんなで一緒に取り組み、遊びを通して学習する ・個々の算数的活動の課題や一緒に行う算数的活動の充実 ・計算ミスなど個々に合わせた支援の充実 ・授業内での役割の与え方 ・算数科授業における算数的活動の量と方法の変化</p> <p>3 講師による講話 ・本時の授業から…全員で同じ活動をする良さ 1・10・100のタイルの活用方法（位どり、見比べやすいように貼る、みんなで数える） 計算の言語化する必要性 遊びの持つ特異性と「教科学習」の有効性 ・特別支援学級の大切さ ・保護者の願いと授業について</p>			
次回例会 日付	会場校	内容	
1月17日（火）	草野小学校 体育館	教材・教具の紹介	

市教研 特別支援部会 例会報告書 (7日以内)

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2	11月	38人	新宿小学校

【 特別支援学級における国語科の授業実践報告会 】

千葉市内小学校 4校

①単元名 「主語と述語と関係に注目しよう 『あいうえおの木』」

- ・絵本の読み聞かせを行い、言葉づくりを行った。
- ・言葉の葉カードを活用して、主語と述語になる言葉を考えた。自分から進んで文を作ることができた。

②「ICT を活用した指導の工夫」

- ・主要国 27 か国の首都・人口・山・川・言葉・などをギガタブや地図帳を使って調べ、新聞形式にまとめた。
- ・千葉県の市・町・面積・人口・駅・川・特色などをギガタブや地図帳を使って調べ、新聞形式にまとめた。
- ・NHK for school「おはなしのくに」を視聴し、クイズを作って出題しあった。
- ・物語「とんちばなし」を教科書、動画、絵本を用いて内容を読み取った。お気に入りの話を選び、POP を作成した。

③実践報告

- ・登場人物ごとに色分けすることで、物語のあらすじや行動、関係性を明確にすることができた。
- ・「作文を書こう」では、5W1Hを意識して作文できるようにワークシートを工夫した。
- ・校外学習で水族館に行った際に見た生き物の名称を読み書きしたり、その生き物の説明文を書いた。
- ・登場人物のマッチングができるワークシートを作成し、読み書きへの意欲を高めた。

④単元名 「詩に親しもう」

- ・動画「あいうえおのうた」を歌うことで、興味関心を高めることができた。
- ・決まった文字数の言葉を選び、詩特有の韻を踏む形に当てはめることができた。
- ・季節を感じられるような絵や写真を見て、イメージしたことを書き留められるようにした。

次回例会 日付	会場校	内容
1月17日	院内小学校	授業実践報告会

ブロック名	月例会	参加人数	会場
B	11月	27人	千葉市中央コミュニティーセンター
<p>【作業学習】学習会 指導・助言 千葉市養護教育センター 指導主事</p> <p>「生徒一人ひとりがもてる力を発揮するための支援のあり方」</p> <p>○作業学習の扱いについて(法的な根拠)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業学習とは各教科等を合わせた指導(日常生活の指導,生活単元学習,あそびの学習,)</li> <li>・なぜ教科等合わせた指導を行うのか→学習によって得た知識や技能が断片的になりやすい。 生活の場で応用、生活経験が不足しがち</li> <li>・各教科等合わせた指導を行う場合→計画(P)実施(D)評価(C)改善(A)効果的に実施していく。</li> </ul> <p>&lt;指導を進める上でのポイント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達の段階に応じて望ましい勤労観や職業観を身につけ、自らの生き方を主体的に選択できるようにする。</li> <li>・作業学習は、各教科等のそれぞれの内容と目標がもとになっていること。</li> </ul> <p>&lt;具体的な事例&gt;</p> <p>国語：話し合い活動。自分の考えを言う。相手の考えを尊重する。</p> <p>数学：LMS等の大きさを決める、測る。</p> <p>社会：お店で働く人について学習する。身だしなみ、挨拶、マナーなど。流通について学習する。</p> <p>&lt;指導にあたって、配慮する点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領 P45 参照</li> </ul> <p>○大切にしたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒主体的な作業学習 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">生徒自身が自分から、自分で、仲間と共に、めいっぱい働く</span></li> <li>・やらされている作業は意味がない。</li> <li>・教師も生徒とともに作業する。</li> </ul> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分で</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全面の確保→服装,道具の点検,補助具の工夫</li> <li>・作業環境→適切な作業スペースの確保(動線) 自分でする環境づくり</li> </ul> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">仲間と共に</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いなければ困る 誰かの役に立っている 自分が有用と思える感情</li> </ul> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">めいっぱい働く</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間いっばいに働くための状況づくり</li> </ul> <p>○アイデアを考えよう</p> <p>「ブレイン・ライティング」の実施→たくさんアイデアの得方を学んだ。</p> <p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「活動あって学びなし」にならぬよう、「物事をあらゆる視点から見よう」</li> </ul> <p>①虫の目：目の前のものを集中してみる目</p> <p>②鳥の目：空から全体を見る目</p> <p>③魚の目：流れを読んで見通す目</p>			
次回例会	日付	会場校	内容
	1/17(火)	千葉市中央コミュニティーセンター	今年度のまとめ

ブロック名	月例会	参加人数	会場
C	11月	35人	千城台わかば小学校 体育館

### 1 初回の相談時での検査法について

#### (1) 聴覚的記憶力検査・語音弁別力検査・発語器官検査

- 検査は、最初の出会いが大事である。保護者や児童が受けた感触によって、その後担当者から伝えられたことへの受け止め方が変わってくる。安心して楽しい時間にして終了することを心掛ける。
- 『千葉市きこえとことばの教室 構音検査 手引き』を参考にするとよい。
- 検査1から行うこと。児童が答えやすい、一番簡単なものから行うことで、児童が安心して成功経験を積んで取り組むことができる。
- 検査で具体物を児童に提示し説明する際、児童にとって左側から順に行うこと。
- 語音弁別検査は、発問の順番を変えてはならない。
- 検査の正誤は児童には伝えず、答えられたことに対して称賛するようにするとよい。
- 聴覚的記憶力検査は、児童が集中している時に行うこと。

#### (2) LCSA (エルシースケール)

- 2回目以降の検査は、1年間以上空けて行うこと。
- 言葉につまずきがある、という主観的で大まかな評価だったのが、検査をすることで、何が苦手で何ができるのか、という客観的な評価をすることができる。そのような見方があることをことばの教室担当者として知っておく必要がある。
- 検査の所要時間は50分間。全ての項目を一度に行うのには時間がかかるので、毎回1問ずつ行うなど、分けて取り組むこともよい。

### 2 検査についての質疑応答・事前アンケートへの回答

#### ○ことばの教室入級基準の確認

→言葉の発達を見極めるにあたり、WISC、LCSA、他にどのような検査が適切なのか、検討が必要である。

→知的な発達と関連しているのであれば、ことばの教室は対象外となる。ただ、そのような児童の中には、成育歴上や家庭環境上の問題、言語の面で落ちている等の影響も考えられる。初めに知的な発達と関連しているかどうかを知るために、WISCは必要となる。状況絵のテストも参考になる。

#### ○入級はしないが言葉につまずきがある児童・保護者・担任に対してできること

→言葉が増えるやりとりの方法、自分の気持ちや考えを言い表せるようにする方法など、伝えていくこと。

### 3 諸連

○10月例会の授業展開の授業研究記録の配布

○1月例会のお知らせ

次回例会 日付	会場校	内容
1月17日(火)	ギガタブを活用した オンラインミーティング	○構音指導で使っている教材の紹介・情報共有

ブロック名	月例会	参加人数	会場
	11月例会	14名	高浜中学校 図書室

「ギガタブでの指導について」

講師 千葉市内中学校 LD等通級指導教室担当教諭

○ギガタブを使って、生徒に有効な指導(個別指導)をしていくために、有効な活用方法を共有したり、教材を作りながら会員の疑問点を解消したりする機会となった。

1 有効な活用方法

- ・人間が情報を得るときの比率について、動画の情報量が多い、つまり耳と目からの情報が多い。

文字 : 画像 : 動画  
1 : 7 : 5000

- ・動画を使った勉強法

「ICT教材 eboard(イーボード)」「とある男(YouTube)」などの動画とプリントを組み合わせた教材の紹介。

- ・ギガタブは、検索、感覚情報、ストックができる。  
フロー型の授業は流れていくが、ギガタブを使ったストック型は蓄積ができる。
- ・教材づくりのポイントは、余白・感覚・配色。
- ・WEBサイトの有効活用。
- ・ブックマークを作りストックしておく。
- ・ギガタブ教材を生徒にあてはめるのではなく、一人一人に応じたギガタブ教材を使用することが大切。

2 ギガタブ教材づくりの成果

- ・A・Fグループ: スプレッドシートのTODOを使い、「ICT教材 eboard(イーボード)」から必要な学習のリンクをコピーして貼り付けて、自主学习教材を作った。TODOは、教材だけでなく自分たちの仕事の管理にも使えることが分かった。
- ・B・Eグループ: スライドを使い、ワーキングメモリートレーニングの教材のリンクをコピーして貼り付けた。ギガタブ教材を初めて作り、基礎的な操作方法が分かった。
- ・Cグループ: スライドを使い、「NHK for School」から必要な学習のQRコードをコピーしてリンクと一緒に貼り付けた。生徒はQRコードをクリックして楽しみながら学習できると考えた。
- ・Dグループ: スライドのフラッシュカードを使い、英単語の教材を作った。絵カードに対する発音は、「音声読み上げソフト 音読さん」からダウンロードした音声データを貼り付けた。

○その他

- ・次回の連絡

次回例会	日付	会場校	内容
1月例会	1/17	オンライン	「一年間の振り返りと次年度の見通し」

# 特別支援教育部会

## 令和4年度 10月例会報告



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	10月	28	瑞穂小学校
<p>1 同教材を用いた実践ビデオの視聴</p> <p>2 授業指導案検討  授業者 市立小学校教諭 2名  算数科「ポッチャ&amp;カーリングをしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用する教材について</li> <li>・児童の実態を踏まえたため</li> <li>・本時の展開</li> </ul> <p>3 質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の役割について</li> <li>・指導計画の時間数と子どもたちの変容について</li> <li>・活動中の立式の仕方、子どもたちの様子について</li> <li>・計算の定着の図り方</li> </ul> <p>4 講師からのご指導  元養護教育センター指導員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の在り方について プリントでできていることと実際にやってみてできることの違い  子どもたちが「楽しい」「わくわくする」授業</li> <li>・指導案を読んで 3グループに分かれるように感じるが、担任二人でどのように展開していくかが  楽しみ</li> </ul> <p>6 小グループでの話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援学級、支援学校における児童の実態</li> <li>・授業の計画の仕方、みんなが楽しくできる授業</li> <li>・人数の多い学級、少ない学級での学習形態（実態で分けるのか、みんなで行っていくのか）</li> <li>・共同学習の良さ、大切さ、困難さ</li> </ul> <p>7 講師からのご指導  元養護教育センター指導員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在はきぼーる3階で相談室を行っている。</li> <li>・3の概念形成の難しさ</li> <li>・教材「がたん、ごトン」</li> <li>・保護者との関わりについて。保護者の願い・連絡帳でのやり取り</li> </ul>			
次回例会 日付	会場校	内容	
11/15 (火)	瑞穂小 アリーナ	授業研究（ビデオ視聴）算数科 瑞穂小学校教諭 2名 講師 元養護教育センター指導員	

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2	10月	31人	院内小学校

【 自立活動について (講師：千葉市立小学校 教諭) 】

○自立活動の内容と項目

- ・指導要領に記載されている6区分27項目を参考に、児童の将来的な自立に向けて必要な力をつけさせられるよう、計画的に指導をする。

○自立活動を含めた指導計画や通知表の記入例

- ・指導計画を作成する上で必要な実態把握について、どんな点に気をつけて実態把握をしているか意見を出し合った。児童の苦手なことばかりに手を向けるのではなく、「興味・関心」に目を向けることで、自立活動の個別課題を作成するときなど、意欲的に取り組める課題づくりに繋がる。
- ・個別の指導計画と通知表に自立活動の目標も記載し、学期ごとに評価ができるようにする。
- ・講師の勤務する小学校では目標の欄に支援を含めて記載し、評価の欄には児童の学習の様子を記載していた。

○自立活動シートの記入

- ・自分の学級の児童を一人決め、実態、自立活動の内容項目との関連、短期目標と、関連付けて記入していった。

○教材・教具の紹介 (グループ活動)

- ・記入した自立活動シートを見ながら児童の実態を話し、持参した教材・教具をどう活用しているか話した。

次回例会 日付	会場校	内容
11月15日	新宿小学校	特別支援学級における国語科の実践報告

ブロック名	月例会	参加人数	会場
B	10月	32人	千葉市立花園中学校
<p>【授業研究】</p> <p>1. 日時：10月18日（火）</p> <p>2. 会場：千葉市内中学校</p> <p>3. 内容：授業研究 作業学習</p> <p>研究授業（TVで視聴）</p> <p>協議会（グループ協議・情報交換）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業についての感想、質疑応答など</li> <li>・雨天時の園芸、個に対する支援</li> </ul> <p>助言指導</p> <p>諸連絡</p> <p>&lt;協議会での内容&gt;</p> <p>○授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の振り返りができるので、作業日誌を書いているのがよかった。取り入れてみたい。</li> <li>・白衣のアイロンがけは、人の役に立つという目的が取り込まれていてよかった。</li> <li>・生徒が教師に報告し、アドバイスを受けてやり直すのがよくできていた。</li> <li>・園芸で、牛乳パックを利用したのがわかりやすくよかった。→計る学習につなげてよい。</li> </ul> <p>○改善点、意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイロンがけでは、実態に合わせて軍手などをつけさせてはどうか。</li> <li>・園芸では、個数、量など具体的に見通しを持てれば集中できるのではないか。</li> </ul> <p>○質問等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業時の服装、年間の作業内容について</li> </ul> <p>○雨天時の園芸活動の具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイロンビーズ、クリーニング、オープン陶土、かご作り、空き缶つぶし、アイロン等、他の活動を行う。</li> <li>・パソコンで作物のことや収穫、調理方法について調べる。</li> </ul> <p>○個に対する指導の工夫、具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業内容ごとに班に分け、適材適所で行っている。</li> <li>・手作り補助具の利用など</li> </ul> <p>&lt;助言者の先生より&gt;</p> <p>○実態差のある生徒たちへの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に応じた手だてができていて生徒のその時間の目標の達成が変わってくる。</li> <li>・違う実態→違う目標</li> </ul> <p>○各教科との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を展開の中で自然に生きる力として機能するように。中学部では「職業・家庭」の内容が中心。</li> </ul> <p>○作業学習について大切なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実体験の中で身に付けられる。主体的に取り組める。自己有用感につながる。</li> </ul>			
次回例会 日付	会場校	内容	
11月15日（火）	千葉市中央コミュニティーセンター	作業学習についての学習会	

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	10月	29人	院内小学校 体育館

### 1 授業展開（ビデオ録画の参観・45分間）

○吃音のある児童と担当者との対話で構成された授業展開。

### 2 協議会（オープンダイアログ形式・35分間）

○協議会の（オープンダイアログ）の形

はじめ、参観者全員が半円に並べられた椅子に座り、その中心に提案者と助言者の2名が座り、更にその近くに空席を3脚置く、という場の設定をした。そして、提案者または助言者に対して質問がある参観者が中心の空席へ移動し、質問をする。助言者が、言葉を紡ぎ、時には提案者や参観者に質問をしながら、中心に座る人物だけで対話を深めていく。その間、周りの参観者は静かに傾聴する。質問が終わった参観者は、元の半円の席に戻る。代わりに、質問のある他の参観者が中心の空席に移動し、質問をする、という形式。

○議題

①6年生の児童対し、残り半年間でどのような指導に取り組むとよいか。

②今後も児童との対話を深めていくため、先生方は日頃から児童とどのような対話をしているか。

○協議会で話し合われた内容の一部

参観者：「対話が深まる良い授業だった。高学年になるにつれ、今回展開された授業中のような対話ができる関係性を児童と作ることは難しいと日頃から感じている。提案者は普段からどのようなことを意識して児童と関係作りをしているか。」

提案者：「児童を知りたい、という気持ちが強かった。児童の情景を知るために、授業を見に行くこともした。また、このような関係性を作ることができたのは、児童の人柄も大きく関わっていると考える。」

助言者：「提案者は、児童とまだ半年間しか関わっていない中で、健康生成論や首尾一貫感覚等、いろいろな学習にチャレンジしてきた。本来6年間かけて行う学習を行っているところである。提案者は、児童と学習し始めた頃はどのように進めていたか。」

提案者：「はじめは吃音とは関係のない話題で終わる学習もあった。でも、もっと児童と話したいという一心で、様々な学習を取り入れながら対話を続けてきた。」

参観者：「私も吃音チェックリストに取り組みながら、児童についてもっと知っていきたい。」 同様に続く。

○議題について挙げた助言

①児童と提案者の対話の様子を見ると、このままの対話を続けていくのもよい。その上で、児童が自身の経験について「やることに意味があった。」と意味付けられるよう振り返られることが望ましいと考える。

②吃音チェックリスト、どもりかるた等を通して。かるたは、児童に見せて「共感できる」、「そう思わない」、「分からない」の3つに分類させて対話を深める方法もある。

### 3 諸連絡

○第2回ブロック研修会は、きこえの教室担当者による難聴理解授業についての提案を行う。

○11月例会のお知らせ。

次回例会 日付	会場校	内容
11月15日(火)	千葉市立 千城台わかば小学校	○初回検査・検査法の研修 (千葉市立小学校 教頭、千葉市立小学校 教諭)

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D	10月	17名	高浜海浜小学校

「WISC やアセスメント結果からの合理的配慮の事例と課題」

講師 千葉市立中学校 教頭

○グループごとに、3パターンの結果から読み取れることと支援方法について協議を行った。

①聴覚処理優位型

<グループ協議の意見>

読み取れること(抜粋)	支援方法(抜粋)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉をよく知っていて話が上手</li> <li>・不器用、片付け苦手、書字が苦手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギガタブなどの代替手段を利用する</li> <li>・得意なことを伸ばす・書く量の調整</li> </ul>

<講師より>

読み取れること(抜粋)	支援方法(抜粋)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・もの知りで語彙が豊富・指示を聞いて覚える</li> <li>・理解は少ない・推測苦手・誤解されやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手にわかりやすく説明する練習・情報を絞る</li> <li>・初めてのことは事前学習・言葉の図式化</li> </ul>

②視覚処理優位型

<グループ協議の意見>

読み取れること(抜粋)	支援方法(抜粋)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業は得意で、周りを見て活動できる。</li> <li>・言葉の理解が弱く、自分の思いを言えない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手順表や写真で示す・正しい見本や手本</li> <li>・個別に話を聞く・気持ちのコントロール力をつける</li> </ul>

<講師より>

読み取れること(抜粋)	支援方法(抜粋)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発想力が豊かで新しいことをすぐ吸収する</li> <li>・集団授業は苦手・手が先に出る・話が苦手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉を言葉で説明する練習・気持ちの言語化</li> <li>・手本を示す・振り返りを言葉でしてあげる</li> </ul>

③G A I 優位型

<グループ協議の意見>

読み取れること(抜粋)	支援方法(抜粋)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話はでき、理解力あるがテストはできない</li> <li>・書けない・課題をやらない・不注意</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のやり方で覚える工夫・音声入力活用</li> <li>・穴埋め式など得意なことを生かす</li> </ul>

<講師より>

読み取れること(抜粋)	支援方法(抜粋)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識やパターン認識の問題が得意・忘れる</li> <li>・実力を過小評価・努力不足と思われがち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み書き、聞き取りサポート必要</li> <li>・テスト配慮・心理面のサポート</li> </ul>

○講師より

- ・アセスメントの方法は①どんなことでつまづき困っているかを観察②面接などで情報収集③心理検査など。
- ・検査結果を見てその子を判断するのではなく、まず「子どもありき」で考える。検査結果は一つの資料としてとらえることが大切である。

次回例会	日付	会場校	内容
11月例会	11月15日(火)	千葉市立高浜中学校	「ギガタブでの指導について」 講師 千葉市立中学校 LD 等通級指導教室担当者

**特別支援教育部会**

**令和4年度  
9月例会報告**



市教研 特別支援部会 例会報告書 (7日以内)

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1ブロック	9月	37名	草野小学校
<p>1 特別支援学級における「国語」「算数」について（講師：千葉市立小学校 教諭）、 質疑応答、感想</p> <p>○教育課程の編成 知的障害特別支援学級と、自閉症・情緒障害特別支援学級の違い</p> <p>○授業づくりの流れ 特別支援学級における国語科・算数科目の授業づくりは、学習指導要領と一人一人の個別指導計画を根拠として、学級全体の実態把握をし決定する。 国語と算数は、全ての教科の基礎となるので、個別指導を重視する。学級全体で出来る単元も探りつつ行う。学級全体で行いやすい内容は、算数であれば長さ・時計・図形・お金など。国語であれば、話を聞く・読む、言葉集め、スピーチ、かるたあそび・作りなどの単元など。</p> <p>○模擬授業・授業事例 一斉授業「図形」 四角形と三角形 子どもの声を待ってうなずきだけで進めない授業をする。 学力に合わせて発問をする。</p> <p>○質疑応答 各学級の実態により、行っている授業での困り事の相談があった。 ・国語の言葉の学習の中で、形容詞を教えることに困り感を感じる。 →なるべく指導要領に即した言葉で教える。実態によって言い方を工夫する。 ・活動時飽きてしまう子がいる。 →なるべく授業の中で、意味ある動きをさせる。</p> <p>2 諸連絡 本日のアンケートはギガタブのクラスルームにて行う。 10月例会の諸連絡はクラスルームにて行う。</p>			
次回例会 日付	会場校	内容	
10月18日(火)	瑞穂小学校	指導案検討 授業者 2名 講師 千葉市内小学校 教諭	

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2	9月	52人	院内小学校

【特別支援学級における道徳授業(講師：横浜市立小学校 校長先生)】

○特別支援学級における道徳授業実践の紹介

- ・通常学級での道徳授業の「基本的な学習過程」をおさえておく。  
導入→教材提示→展開前段（道徳的価値を把握）→展開後段（自己を語る）→終末
- ・特別支援学級では展開前段はみんなで学習をする。「学習過程を可視化」「教材提示も視覚に訴える」「話を追って発問する」ことに留意する。
- ・展開後段は特性に応じてグルーピングする。「自立活動」や「ソーシャルスキルトレーニング」を取り入れることも良い。
- ・終末では「日常生活」に戻すことのできる活動にすることで、肯定的な評価を得るよう配慮する。

○授業展開の展開の紹介

- ①「なんかへんだぞ」 ②「おれたクレヨン」

○研修の振り返り

- ・本研修を振り返り、どのような学びがあったか記入した。
- ・自分と違う考えの先生方と話し合い考えの交流を行った。
- ・考えの交流を通して得た学びをワークシートに記入し、振り返りを行った。

○質疑応答

次回例会 日付	会場校	内容
10月18日	新宿小学校	特別支援学級における自立活動の実践について

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	9月	53人	千葉市文化センター
<p>【作業学習について（教材等の紹介と情報交換）】 講師 千葉市立中学校 校長</p> <p>(1) 作業学習の紹介</p> <p>① 手芸・紙工 千葉市立中学校 (教諭2名)</p> <p>② 農園芸 千葉市立中学校 (教諭)</p> <p>③ 陶芸 千葉市立中学校 (教諭)</p> <p>(2) グループ別情報交換</p> <p><b>A 農園芸</b></p> <p>○雨の日の活動について どのようなことをしているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の手伝い。できる作業を考えて取り組む。作物についてギガタブで調べる。</li> <li>・園芸をと室内作業の2本立てで行っている。</li> </ul> <p>○作業費の扱いについて どのような工夫をしているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土や肥料など予算に入れ、市会計で購入している。</li> </ul> <p>○少人数で、お手軽にできる農園芸はないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プランターで花を育てる。</li> <li>・夏野菜、トマト、ジャガイモなど</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技能員の方から情報を得る。</li> <li>・連作障害への対処</li> </ul> <p><b>B 手芸・縫製</b></p> <p>○各学校の取り組みについて情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に合うよう、試行錯誤を重ね作業学習を行っている。</li> </ul> <p><b>C 木工・紙工・クラフト</b></p> <p>○作業の紹介(木工) 千葉市立中学校(教諭)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料費の捻出する方法⇒講師助言よりご指導をいただくことができた。</li> <li>・材料の確保の仕方</li> </ul> <p>(3) 講師よりご指導</p> <p>1 作業学習に関する情報</p> <p>2 書籍の紹介</p> <p>3 会計及びお金の取扱</p> <p>(1) 通帳の一本化⇒令和5年度より実施。令和4年度は移行期間。</p> <p>(2) 公費・私費の見直し(分担区分の整理)</p> <p>(3) 作業頒布等の売上金⇒「歳入事務の流れ」/「財務会計システム」/戻り入れ手続き必要</p> <p>重要・・・その1 会計に関する現状の確認</p> <p>その2 管理職及び事務担当者へ相談</p>			
次回例会	日付	会場校	内容
	10/18(火)	花園中学校	授業展開 教科学習・協議会

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	9月	25人	オンライン開催

### 1 諸連絡

- きこえ担当者による、来年度から順番となる県教研の提案の立候補。→ 満場一致で決定。
- 10月例会のお知らせ。

### 2 10月授業の指導案検討

提案者は日頃から「健康生成論」と「ポジティブワーク」をベースに対話を行っている。本時も、以前児童が語った2つの対話を振り返り、「健康生成論」と「ポジティブワーク」を取り入れながら話し合う授業展開を予定している。その指導案について参加者に質問や意見、感想を募った。

～質疑応答・感想～

- 「健康生成論」について、どう児童に伝え、どう指導に取り入れているのか。  
→「健康生成論」についての説明と、中核概念となる「SOC（首尾一貫感覚）」についての説明が書かれた掲示物を児童に提示した。そして、担当者が出会った吃音のある大人から聞いた話を児童に伝えた。すると、児童自ら、「SOC」の3つ要素である「把握可能感」、「処理可能感」、「有意味感」の項目に、吃音のある大人の話の内容を当てはめ理解していった。その後、自分の経験についても「SOC」と照らし合わせて考えられるようになってきている。担当者としては、常に「健康生成論」について、押し付けるような指導をしないように心がけているが、今回、児童がスムーズに自分のこととして捉えている様子が見える。
  - 「健康生成論ワーク」を6年生以外の児童に伝える際、児童にとって分かりやすいネーミングにする方法も選択肢としてあると思った。児童とともに名付ける等。6年生の本児は理解できているようなので、このままで良いと感じた。
  - 吃音カルタ作りを常時活動としているため、指導案の指導計画にも吃音カルタについて記入するとよい。
- ～助言者より～
- 提案者は6月例会と比べ、話したい事、伝えたい事に溢れている。10月例会の協議会は、オープンダイアログ形式での話し合いを予定している。それまでに担当者は、「健康生成論」、「ポジティブワーク」、「3種類の吃音チェックリスト」、「冰山」、「言語相関図」の学習を行っておくこと。

### 3 ケース別グループ討議

A（口唇口蓋裂など）、B（側音化構音）、C（サ行音の置換）、D（カ行音の置換、音と書きが一致しない）、E・F（吃音）、G（吃音理解授業）に分かれ、各グループから提案者を出し、グループ内で検討した。

例）G（提案者はことばの教室担当者。他メンバーは理解授業を日頃から展開しているきこえの教室担当者）

- 他校での吃音理解授業の進め方をどうすればよいか。
  - ・事前に在籍校で打ち合わせやリハーサルを行いたい場合、担当者から希望するのではなく、まずは保護者の意向を確認し、保護者からの希望を優先し進めていくとスムーズである。
  - ・授業展開の最初に、「今から大事な話をする」というファーストタッチが大切。からかう雰囲気させないことが重要である。等。

次回例会 日付	会場校	内容
10月18日（火）	千葉市立院内小学校	○授業展開（録画視聴）、協議会

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	9月	21名	オンライン

指導の悩みや実践していることをグループごとに話し合い、情報共有を行った。

悩み・情報共有の内容

○ギガタブの活用について

- ・無料のアプリを活用している。ビジョントレーニングなどは取り組みやすい。
- ・ある中学校では、時間割を撮影してノートに書き写している。
- ・板書を撮影する配慮を提案したが、人と違うことをしたくないという生徒にはどうしたらよいか。  
→ある学校では  
学校全体で、各授業者が板書を撮影して classroom に貼り、生徒が活用できるようにしている。
- ・ジャムボードを使って、聞き取りトレーニングやビジョントレーニングを行っている。

○書字や読字の支援・指導について

- ・絵本「スイミー」で数を数えるなど、作業的な活動で学習をしている。
- ・市販の課題を使うときは、個別に解説を行っている。
- ・生活の中から課題を出すと、とりかかりやすい。学習指導要領の「遊びの指導」から考えるとよい。
- ・アセスメントが難しい。それをもとに指導計画を立てるのに時間がかかる。
- ・英語はフォニックス表を使って発音トレーニングをしている。
- ・興味関心のある題材を取り入れている。好きなキャラクターなどで課題を作っている。
- ・言葉の教室の経験から、音韻を意識させる指導をしている。
- ・中学校でのテスト読み上げは現実的に難しい。

○SST・人間関係や気持ちのコントロールについて

- ・興味のあることにしか取り組まない児童へのアプローチはどうしたらよいか。  
→はじめは本人の言いたいことを聞いてあげる。しばらく一緒に付き合い、関係を作る。興味のあるものを課題に取り込む。
- ・SSTでは、本人にぴったり合う課題は責められている気分になる。  
→知識をつける目的で行うとよい。先輩の先生に相談して課題を選択するとよい。
- ・在籍校担任との共通理解でSSTの内容を考えると効果がある。
- ・SSTは、通級では理解できていても、実践できないことが多い。  
→在籍校担任と情報共有し、在籍校でも指導をしてもらう。自分の特性をキャラクター化して可視化する。  
ロールプレイや個別指導を続ける。

○その他

- ・巡回指導では、教員は車移動の際に交通事故などの危険が伴う。
- ・LD、読み書き障害の生徒は、高校に入学してからも配慮が受けられるかが心配な面である。
- ・子供の問題と保護者の問題が切り離せず支援が困難。  
→在籍校のカウンセラーなどと協力を。
- ・自己モニタリング力向上の手立てが難しい。

次回例会 日付	会場校	内容
10/18(火)	高浜海浜小学校	WISC やアセスメント結果からの合理的配慮の事例と課題

**特別支援教育部会**

**令和4年度  
8月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
	8月	160人	千葉市生涯学習センターホール

## 講演会 「今こそ子供たちに伝えたい

### パラスポーツの魅力 再発見」

- 1 はじめのことば
- 2 挨拶
- 3 講師紹介
- 4 講演会  
講師：花岡 伸和様
- 5 質疑応答
- 6 お礼のことば
- 7 おわりのことば

**花岡 伸和 様**（日本パラ陸上競技連盟 常務理事）

- ・1976年3月13日大阪府生まれ。学生時に事故により脊髄を損傷し、以後車椅子生活となる。1995年に車椅子マラソンに出会い、競技生活を始める。
- ・1999年にフェスピックバンコク大会出場 5000m銅メダル獲得。
- ・2003年に1500mとマラソンの当時日本最高記録を樹立。
- ・2004年アテネパラリンピック マラソン6位入賞。（日本人最高位）
- ・2010年アジアパラゲームス広州大会出場 1500m銅メダル獲得。
- ・2012年ロンドンパラリンピック マラソン5位入賞 同年引退。
- ・2015年パラサイクリング日本選手権大会優勝。
- ・2017年 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士課程修了。
- ・現在、国内外のパラサイクリング大会に出場する傍ら、日本パラ陸上競技連盟 常務理事及び、関東パラ陸上競技協会 理事長 千葉県教育員会所属 また、講演活動やパラ陸上国際大会の解説や普及活動に尽力している。

#### 【内容】

講演の前半は、花岡氏のお仕事の様子やなぜ車椅子生活になったのかというエピソードを、ご自身の写真をたくさん見せて頂きながら伺った。東京2020パラリンピック競技大会での解説のお話やパラリンピックの歴史、またご自身が経験された事故からどのようにして気持ちを立て直し、前向きに努力できるようになったのかをとて楽しく話して下さった。後半は花岡氏がパラスポーツに向ける情熱や誰もが取り残されない多様性のある社会について、熱いお話を頂いた。誰もが生きやすい社会を目指し、私たちにできることは何か深く考えさせられた。



花岡さんの競技用車椅子



花岡さんによる講演



熱いメッセージを頂きました

次回例会 日付	会場校	内容
9月13日(火)	A-1 千葉市立草野小学校 A-2 千葉市立院内小学校 B 千葉市文化センター C ギガタブによるオンラインで開催予定 D オンライン研修	A-1 国語・算数等の指導法について A-2 特別支援学級における道徳の実践について B 支援などの情報交換 C 10月例会授業研究の指導案検討 ケース別グループ会議 D 個別指導の実際

**特別支援教育部会**

**令和4年度  
6月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	6月	41人	草野小学校
<p>1 実践報告・質疑応答、感想</p> <p>○日常生活の指導「白衣・上履きを洗おう」</p> <p>「自分で靴を洗うことができる。」「洗濯機、アイロンの使い方を理解し、操作できる」をねらいとし、金曜の5時間目、月曜の1時間目に行っている。習慣化することで子供たちが自信をもって取り組むことができるようになった。</p> <p>(感想) 体操服を洗う機会を作ってもよいかもしれない。 アイロンのかけ方はボタン、袖口など気を付けて行えるのは次の課題</p> <p>○生活単元学習「農山村留学の事前学習」</p> <p>「見通しを持って取り組む」「人との関わり方」を重点に置き、通常学級の児童と行くための農山村留学の事前学習を行った。しおりとは別の日課表を用意することで児童の見通しが持ちやすくなる工夫をする。活動内での友達との関わり方に気を付けるため、やり取りの練習をすることで、人との良い関わり方を知ることができるようにする。</p> <p>(質問) 事前学習中、ほかの児童はどうしているのか。→他の担任が学習を進めている。 事後学習については何に取り組んだのか。→下級生に知らせられる新聞づくりを行った。</p> <p>(感想) げんきキャンプの事前学習は行うため、移動教室、農山村留学に向けて、6年間を通して積み重ねていくことも大切。</p> <p>○音楽科の学習「うたおう！ならそう！」</p> <p>学習の流れが書かれたカードを並べて示すことで、児童が見通しを持って取り組むことができるようにする。「歌を歌う、楽器を鳴らす」を楽しんで行うことを大切にして学習を組み立て、児童のやりたいことを尊重することで、児童が楽しんで音楽に関わることができるようにする。</p> <p>(感想) 実態差に分けた学習も良いが、学級皆で行う学習もできたら良い。 鑑賞は、クラシックや童謡など幅広く児童に聴かせても楽しいと思う。</p> <p>○算数科の学習「はかる(重さ・長さ・かさ)」</p> <p>「はかる」を広い意味で捉え、「重さ」「長さ」「かさ」を別々で行い、関連付けながら学習することができるようにする。具体物の重さを量ったり、長さを測ったり、かさを比べたりすることで、体験を通して量に対する感覚を豊かにできるようにする。</p> <p>2 諸連絡</p> <p>8月例会について</p>			
次回例会	日付	会場校	内容
9月13日		草野小学校	国語・算数等の指導法

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2	6月	60人(オンライン)	院内小学校

【特別支援学校高等部卒業後の進路について(講師：養護教育センター 指導主事)】

○卒業後の進路について

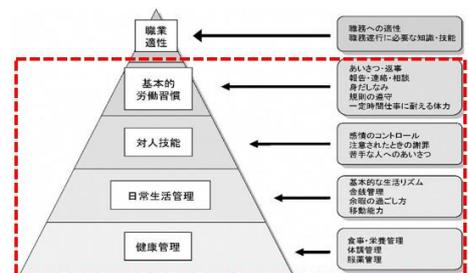
- ・就労は法定雇用率や特例子会社の制度を使った障害者雇用がほとんど。
- ・卒業後に職業訓練校や障害福祉サービスを利用する生徒もいる。職業訓練校では半年または1年の期間、就労に向けて知識・技能・態度を学ぶ。障害福祉サービスは、就労移行支援事業や就労継続支援事業A、Bに分かれていて、企業就労を目指す場合は就労移行支援を利用することが多い。
- ・障害福祉サービスで生活介護や自立訓練を受ける生徒もいる。

○卒業後の生活について

- ・卒業後3年間は主たる支援をしていき、その後、支援機関に引き継いでいく。
- ・支援が必要な場面は、業務に支障が出る場合や、日常生活上、気になる場面が出てきたときであり、やれることは限られている。
- ・学校での生活と大きく変わっていくので学校で生徒によく伝えるようにしている。例えば、夏休みが多くて3日間であることや、土日休みとは限らないこと。貰えるお金についても、お小遣いのような額を思い浮かべる生徒もいれば、100万円といったあり得ない額を思い浮かべる生徒もいる。金銭感覚についても対応が必要。

○社会に出るまでに必要なこと

- ・就職して1年後には3割が離職している。その理由は職場の人間関係や雰囲気、生活リズムの崩れ、働く意欲の低下などがある。就労を目指してきたため、就労すると目標がなく、頑張れなくなる生徒もいるという。再就職に向けてモチベーションを維持していくことに課題がある。
- ・離職しないための土台作りとして、「職業準備性ピラミッド」を参考とした、基本的な態度や技能を身につける必要がある。それこそが小中学校段階で指導・支援することができる内容である。良いところは伸ばし、定着させていくことが自立を目指していく上で必要な能力。
- ・社会に出た後は「合理的配慮」も本人からの希望で支援を受けるようになる。そのため、自分の苦手なことを本人へ理解させること。



【高等部卒業後の進路について(講師：特別支援学校 進路担当教諭)】

○卒業後に関わる障害福祉施設などについて

- ・高等部にはニーズに合わせた3つのコースがあり、教育課程や指導内容の充実を図っている。
- ・卒業後の進路状況は障害福祉サービスが一番多い。

障害福祉サービス	主役種別	H29	H30	R1	R2	R3
就 職	職	12	11	9	5	3
障 害 者 高 等 技 術 専 門 校					2	
○ 生 活 介 護		11	8	20	17	15
○ 短 期 入 所		2	1		1	
○ 就 労 移 行 支 援		9	6	2	4	6
○ 就 労 継 続 支 援 A 型		1	1			3
○ 就 労 継 続 支 援 B 型		7	14	14	15	11
○ 自 立 訓 練		1	2	2	7	2
地 域 活 動 支 援 セ ン タ ー		2	1		1	
通 所 施 設 等		2		1		
そ の 他 ( 在 家 庭 等 )		2	3			
計		49	47	48	52	40

次回例会 日付	会場校	内容
9月13日	院内小学校	特別支援学級における道徳の実践について

ブロック名	月例会	参加人数	会場
B	6月	27人	千葉市立千城台西中学校

## 【研究授業】

- (1) 日時 : 11月16日(火)  
(2) 会場 : 千葉市内中学校  
(3) 内容 : 授業研究 自立活動  
研究授業 (TVで視聴)  
休憩、協議会準備  
協議会 (グループ協議・情報交換)  
・授業について (よかった点、改善点など)  
助言指導  
諸連絡 アンケートの提出について  
8月例会の連絡

## &lt;協議会での内容&gt;

## ○授業について

- ・集中して取り組んでいた。
- ・動線がはっきりして活動しやすい。
- ・高等部に近い作業⇒高等部に行っても困らない。
- ・特性に合った役割について⇒こだわりの強い生徒には無理強いしない。できるものに取り組む。

## ○改善点

- ・作業スペースが広くてもよいのではないか。
- ・アイロンがけは、立ってかけると圧がかかりよかったのではないか。

## ○質問

- ・作業費の捻出について⇒
- ・生徒同士のコミュニケーション活動がもう少しあってもよかったのでは。

## &lt;助言者の先生より&gt;

## 1. 本日の授業について

- (1) ねらい、達成度・・・「ねらい」を外さないこと。本人、環境、状況など刻々と変化している。
- (2) 作業学習で大切にしたいこと
- ・「挨拶」「返事」「報告」「お礼」
  - ・「準備」と「片付け」
  - ・生徒にわかりやすい「目標」の設定
  - ・手だての工夫
  - ・一つの役割⇒任せる
  - ・予算内で可能な作業学習
  - ・教師の「動き」と「言葉」※安全第一 (安全配慮+事故対策)

指導とは自分の型にはめ込もうとするのではない。「納得」「自信」「勇気」を与えるものである。

次回例会 日付	会場校	内容
9月13日	千葉市文化センター	支援について情報交換

市教研 特別支援部会 例会報告書 (7日以内)

ブロック名	月例会	参加人数	会場
C	6月	39人	高洲第三小学校

- 1 10月例会授業研究の提案者による、対象児童の実態についてパラレルシートをもとにした説明児童の実態として、パラレルシート（本児の気持ちや担当者の気持ちについて、担当者が主観的に物語形式で記述した記録）を紹介し、子供たちの変容の見方や対話の進め方について助言を募った。
- 子供たちの変容の見方  
→ワークシートを作成し、毎回の学習に使用している。そのワークシートを見返すことで、変容を見ている。また、年間を通してどもりかるたの作成に取り組み、気持ちの変容を見る方法もある。
- 子供たちとの対話を進め方  
→マス目に話題が書いてあるすごろくをしたり、行事の話をしたりしながら、対話へとつなげていく。グループ学習やペア学習を見据え、メンバーの共通の話題を提供し、話を広げていく方法もある。
- 2 グループ討議<吃音の授業展開の流れを「始め」「中」「終わり」に分けて>※斜体文字は難聴グループ
- 始め
- ・自由会話（学校行事〔プール、外国語授業等含む〕、今日の出来事、担当者に話したいこと、がんばっていること、先週の振り返り 等）
  - ・ギガタブによる動画の視聴から話題作り（NHK for school や吃音に関する動画）
- 中（基本、「始め」から広げられたものを掘り下げる。）
- ・作品作り（どもりカルタ、どもりキャラクター、吃音クイズ、吃音に関するすごろく、絵本作り 等）
  - ・吃音学習（言語関係図、吃音の冰山、吃音の波 吃音ワークブックチェックリスト等）
  - ・どもる友達との交流（手紙交換、グループ学習またはペア学習の準備 等）
  - ・理解授業について（友達に知ってほしいこと、担任の先生にお願いすること、自分でがんばること 等）
- 終わり
- ・本時の振り返り、自分の変化を語る、次時の計画 等
- 3 助言者による吃音についてのお話
- 「教え子にどんな子に育ってほしいか。」を考えることから、指導の目標が決まっていく。それがその子の目標にもなっていく。10月例会授業研究の見所は、対話。参観者にはそこを丁寧に見て助言してほしい。
- 私たち担当者が子供たちと吃音学習できるのは小6まで。基礎知識を学びながら、その後のライフステージを予想した話し合い学習やライフステージの紹介なども学習する。ロールモデルの話もしていく。
- 本児をもっと知るために、吃音チェックリストを活用する。対話が深まり、本児を更に知ることができる。
- アウシュビッツに収容された人の3割はなぜ解放後（心も）健康だったんだろう？→なぜあの人は吃音なのに元気に過ごせるのだろう？を考える「健康生成論」に目を向けていくことが大事である。
- 4 諸連絡
- ブロック研修について きこえ：7月5日 ことば：7月6日  
研修内容：発音の指導方法について。アンケート提出のお願い。
- 8、9月例会について  
8月例会については、後日詳細が分かり次第連絡する。

次回例会 日付	会場校	内容
9月13日（火）	ギガタブを活用した オンラインミーティング	○10月例会授業研究指導案検討 ○ケース別グループ討議

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D	6月	15人	ライトポート中央

## 教育センター ライトポート中央 施設紹介

- 講師紹介 千葉市教育センター 職員  
ライトポート中央 チーフ指導員  
ライトポート中央 指導員
- ライトポート中央 グループ活動見学
  - ・小学部と中学部のグループに分かれて、ゲームをしながらコミュニケーション学習を行っていた。
  - ・大学生と一緒にゲームに参加することで、ゲームや会話をリードし、話のキャッチボールができていた。
  - ・一人一人の児童生徒に合った言葉がけをして無理なく参加ができるように配慮がなされていたため、全員が楽しそうに参加していた。
- 千葉市の現状と施設紹介
  - ・不登校児童生徒キーワード ・低年齢化・アウトリーチ・ICT・つながっていない生徒が多い
  - ・今年度は不登校対策パッケージ活用に入力している。  
学校復帰のみならず、社会的復帰を目指す。  
個々に応じた段階的支援を行う。  
教育相談チャンネルの活用促進。第2・第4金曜日 16:30～16:50
  - ・ライトポート中央 小学部と中学部がある。  
中学部の活動は、蘇我中学校の教員による支援授業・自習・スポーツタイム・グループ活動である。  
入級生徒の安心できる居場所になるよう、生徒の情報を在籍校と共通理解したい。在籍校からライトポートへの情報提供や連絡を密にしてもらいたい。
- 座談会「不登校傾向のある児童生徒への対応」
  - ・苦しんでいた生徒がライトポートで楽しく活動している姿が見られた。少人数を希望している生徒だが、入級者が増えて入れなくなってしまう生徒もいる。⇒個別対応は難しいため、他のライトポートを紹介している。
  - ・言葉をかけても反応しない生徒がいる。⇒生徒の気持ち 先生の話のキャッチはしているが、その時は投げ返す元気がなかった。後からあの時の先生の言葉がうれしかったと振り返る。
  - ・通級指導教室の個別指導で自信がついてきた生徒の小集団への移行は。⇒その生徒が小集団活動を望んでいるのかを確認することが大事である。
  - ・在籍校担任とのかかわりは。⇒担任面談や夏休みにかかわる機会を設ける。ライトポートにつないだから安心してしまうことは良くない。担任がかかわってくれる生徒は安心感を持ち伸びる生徒が多い。担任が気軽に見学に来てほしい。
  - ・青葉病院院内学級の先生より、ライトポートとの連携について。⇒ほかの学校と比べて生徒の情報が少ないため、ケース会議や書面での連携をしていきたい。

次回例会 日付	会場校	内容
9月13日(火) 15:30～	オンライン「市教研DブロックR4年度」	・個別指導の実際 指導の悩みなどをグループで話し合う。

# 特別支援教育部会

## 令和4年度 5月例会報告



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	5月	41	教育会館

- 1 推進委員自己紹介
- 2 ブロックテーマについて「児童の実態に合わせた指導・支援の工夫～楽しい授業を目指して～」
- 3 年間計画（案）

日時	内容	会場	講師
6/21（火）	実践報告	草野小	
9/13（火）	国語・算数の指導法	草野小	千葉市内 教諭
10/18（火）	指導案検討	瑞穂小	未定
11/15（火）	授業研究	瑞穂小	未定
1/7（火）	教材・教具の紹介	草野小	

- 3 自己紹介・情報交換 テーマ「絵をかく会の教材、困っていることについて」

- ・実態差が多い中での一斉授業について
- ・絵をかく会の題材について
- ・運動会のとときの担任の分担について
- ・教育支援計画の作成の仕方について
- ・トイレトレーニングについて
- ・特別支援学級と特別支援学校の違いについて

- 4 質疑応答

- ・特になし

- 5 その他

- ・今後の例会案内についてはクラスルームのストリームに前の週の金曜日までにあげる。
- ・資料は、学習システム→小中特別支援学校→教職員共有→市教研→特別支援教育部会→A1ブロック→会員の先生方 に入れておく。

次回例会 日付	会場校	内容
6/15（火）	草野小	実践報告

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-2	5月例会	42人	千葉市教育会館

## 【年間活動計画について】

テーマ	月日	内 容	会 場	助 言 者
楽しい授業を作るための支援・指導の工夫	6月21日(火) 14:00～	卒業後の進路について	未定	養護教育センター 指導主事 特別支援学校 進路指導主事
	9月13日(火) 15:30～	特別支援学級における道徳の実践について	未定	未定
	10月18日(火) 14:00～	自立活動の実践について	未定	千葉市内小学校 主幹教諭
	11月15日(火) 14:00～	実践報告	未定	
	1月17日(火) 15:30～	実践報告	未定	

## 【グループにわかれての情報交換】

## ○絵をかく会のテーマについて

- ・絵本を題材にしたもの「にじいろのさかな」「ミリーのすてきなぼうし」「せかいいちおおきなうち」
- ・歯磨きやシャボン玉、和太鼓など、生活の中で経験したこと
- ・植物の絵（アジサイ・ツツジ・菜の花など）
- ・生き物（チョウ・ザリガニ・カタツムリ）
- ・行事の絵
- ・手形やボディペインティング

## ○げんきキャンプの活動案

## 【ギガタブのサイト・活用例紹介】

- プログラミングゲーム
- ミュージックラボ
- いろいろな教科
- タイピング
- 昆虫図鑑
- SDGs
- 明治乳業
- お仕事図鑑
- キッズネット工場見学

## 【連絡】

- ・今後何か連絡があればクラスルームを活用していくので、定期的にチェックをお願いします。

次回例会 日付	会場校	内容
6月21日(火)	未定	卒業後の進路について

ブロック名	月例会	参加人数	会場
B	5月	42	教育会館

- 1 推進委員自己紹介
- 2 ブロックテーマについて「生徒一人一人が持てる力を発揮するための支援のあり方」
- 3 年間計画（案）

日時	内容	会場	講師
6/21（火）	授業研究 作業学習	千城台西中学校	千葉市内中学校校長
9/13（火）	情報交換	千葉市文化センター	
10/18（火）	授業研究 作業学習	千葉市立花園中学校	千葉市養護教育センター 指導主事
11/15（火）	学習会	千葉市中央コミュニ ティーセンター	千葉市養護教育センター 指導主事
1/7（火）	学習会 次年度に向けて	千葉市中央コミュニ ティーセンター	特別支援学校 校長

- 3 自己紹介・情報交換
  - ・ 6月23日（木）のげんき交流会について
  - ・ げんきキャンプの参加について
  - ・ 作業学習の内容
  - ・ 困っていることなど
- 4 質疑応答
  - ・ 特になし
- 5 その他
  - ・ 県教研までのおおまかな流れについて
  - ・ 中学校 校長先生より 本の紹介⇒ギガタブのクラスルームに掲載

次回例会 日付	会場校	内容
6/21（火）	千城台西中学校	授業研究 作業学習

市教研 特別支援部会 例会報告書 (7日以内)

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	5月	15人	千葉市教育会館 302・303

○今年度のブロックテーマの決定

- ・Cブロックテーマ

「学級で生き生きと生活できる子どもの育成を目指して」

○今年度の研修日程・計画についての協議、各例会の会場の相談

日時	活動内容	会場
6月21日(火) 14:00～	○10月例会授業研究の指導案検討 ○吃音についての学習	千葉市立高洲第三小学校
8月24日(水) 14:00～	[特別支援教育部会全体] ○特別支援教育講演会	未定
9月13日(火) 15:30～	[言語難聴別のグループ協議] ○ケース別 (構音・吃音・ことばの遅れなど)に相談	オンライン
10月18日(火) 14:00～	○授業研究	千葉市立院内小学校 (予定)
11月15日(火) 14:00～	○初回検査・検査法の研修	千葉市立千城台わかば 小学校 (予定)
1月17日(火) 15:30～	[言語難聴別のグループ協議] ○構音指導で活用している教材の紹介	オンライン

○担当者同士の諸連絡、質疑等

- ・今年度の授業研究の指導案検討と実践の日程についての確認
- ・県教研、県特連についての連絡

次回例会 日付	会場校	内容
6月21日	千葉市立高洲第三小学校	○指導案検討 ○吃音についての学習

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	5月例会	16名	高浜中学校

- 1 自己紹介  
 2 年間計画について
- 特別支援教育部会研究主題  
 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援・指導のあり方
  - Dブロックの主題  
 子どもの行動の捉え方とよりよい支援のあり方
  - 年間計画

日	時間	内容	講師	場所
6/21(火)	14:00 ～	教育支援センター ライトポート中央 施設見学・講話 不登校傾向のある児童生徒への対応	教育支援センター ライトポート中央 の先生	教育支援センター ライトポート中央 大森小学校内
9/13(火)	15:30 ～	個別指導の実際 指導の悩みなどを話し合う	なし	オンライン
10/18(火)	14:00 ～	WISC やアセスメント結果からの 合理的配慮の事例と課題 事前アンケートで提案	中学校 教頭	高浜海浜小学校
11/15(火)	14:00 ～	ギガタブでの指導について 指導報告 事前アンケートで提案	中学校 LD 通級指導教室担当	高浜中学校
1/17(火)	15:30 ～	一年間の振り返り 次年度の見通し	なし	オンライン

### 3 諸連絡

#### (1) 次回について

6月21日(火)14:00から「教育支援センター ライトポート中央」施設見学と講話  
 駐車場などの連絡は、ギガタブやファックスでお知らせします。

#### (2) classroom について

オンライン研修や連絡で使用します。各自で確認をお願いします。

#### (3) 予算について

会場校にコピー用紙、消毒剤、付箋、マジックなどを購入予定です。

次回例会 日付	会場校	内容
6月例会 6/21(火)14:00	ライトポート中央	施設見学・「不登校傾向のある児童生徒への対応」講話